

WEB MESSAGE STOCK PERFORMANCE  
BLOG WORK IDEA MARKETING  
CHECK POINT SEMINAR  
NETWORK

# 正しいCF・BS・PLの考え方

～ 3表の本質を理解し、経営判断に活かす実践ガイド～  
ダウンロードレポート



財務三表(PL・BS・CF計算書)は、企業の健康診断書です。しかし多くの経営者が「決算は税理士に任せている」「数字は見るが意味がよくわからない」という状態で経営をしています。これは、羅針盤なしで航海するようなものです。

本ホワイトペーパーでは、PL(損益計算書)・BS(貸借対照表)・CF(キャッシュフロー計算書)の「正しい読み方・考え方・使い方」を体系的に解説します。単なる会計知識ではなく、経営判断・銀行対応・事業改善に直結する実践的な視点でまとめています。

PL(損益計算書)	BS(貸借対照表)	CF(キャッシュフロー計算書)
一定期間の「儲け」を示す	ある時点の「財産と借金」を示す	実際の「現金の動き」を示す
「黒字でも倒産」の理由がここにある	企業の「体力・財務基盤」の強さを示す	経営の「血流」を管理し倒産を防ぐ

## このようなお悩みはありませんか？

- 決算書を見ても、どこを確認すればよいのかわからない
- 売上や利益は見ているが、数字の意味まで理解できていない
- 資金繰りの状況を感覚で判断してしまっている
- PL・BS・CFの違いや役割がよくわからない
- 銀行が決算書のどこを見ているのか知りたい
- 経営判断に数字を活用できていない
- 会社の財務体力や安全性を正しく把握したい

本レポートでは、このようなお悩みを解決する

**最新事例** を大公開しています！

# PLの構造——5段階の利益を理解する

## 売上高

— 売上原価(製造コスト・仕入コスト)

**= ① 売上総利益(粗利) ←「稼ぐ力」の原点。ここが薄いと全てが苦しくなる**

— 販売費・一般管理費(人件費・家賃・広告費など)

**= ② 営業利益 ←「本業で稼ぐ力」。銀行が最重視する利益**

± 営業外収益・費用(受取利息・支払利息・為替差損益など)

**= ③ 経常利益 ←「通常の事業活動の総合的な稼ぐ力」**

± 特別利益・特別損失(固定資産売却益・災害損失など)

**= ④ 税引前当期純利益**

— 法人税・住民税・事業税

**= ⑤ 当期純利益 ←最終的な利益。BSの純資産に積み上がる**

# BSの構造——左右のバランスを理解する

【左側】資産の部「お金をどう使っているか」	【右側】負債・純資産の部「お金をどこから調達したか」
<p><b>流動資産</b>(1年以内に現金化できるもの)            現金・預金、売掛金、棚卸資産</p> <p><b>固定資産</b>(長期に保有する資産)            有形固定資産(土地・建物・機械)            無形固定資産(のれん・特許)            投資その他の資産(出資金・長期預金)</p>	<p><b>流動負債</b>(1年以内に返済すべき負債)            買掛金、短期借入金、未払費用</p> <p><b>固定負債</b>(長期の負債)            長期借入金、社債、退職給付引当金</p> <p><b>純資産(自己資本)</b>            資本金、資本剰余金、利益剰余金            ←毎期の利益がここに積み上がる</p>
<p><b>資産合計</b></p>	<p><b>負債合計 + 純資産合計 (必ず一致)</b></p>

# CF計算書の3区分を理解する

区分	内容・意味	健全な状態
① 営業活動CF (Operating CF)	本業の事業活動で生み出した現金の増減。利益から運転資本の変動・税金支払いを調整したもの	プラス(継続的に)。マイナスが続く場合は本業の稼ぐ力に問題あり
② 投資活動CF (Investing CF)	設備投資・子会社取得(マイナス)や固定資産売却(プラス)など、投資活動に伴う現金の増減	成長投資中はマイナスが正常。ただし営業CFを超える投資は要注意
③ 財務活動CF (Financing CF)	借入・返済・増資・配当など、資金調達・返済に伴う現金の増減	返済が順調ならマイナス。過剰な借入増加はリスク

**最新事例の続きはこちら** 